

領域	(ア)健康・生活	
ねらい	(a)健康状態の維持・改善 (b)生活のリズムや生活習慣の形成 (c)基本的な生活スキルの獲得	
(a)健康状態の把握	健康な心と体を育て自ら健康で安全な生活を作り出すことを支援する。また、健康状態の常なるチェックと必要な対応を行う。	<p>(直接的な支援)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・来校時(利用開始時)には手洗い、手指消毒、検温を行います。 ・活動時には、外出時(公園等)を含め、定期的に水分補給をするように促します。 ・寒暖に合わせて服装での体温調節を促します。 ・咳やくしゃみがみられる利用児へは、マスクを着用するよう声掛けをします。また、マスクが汚れた場合には、交換をするように促します。 <p>(保護者や学校とのやり取り)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校や家庭へのお迎えの際に、学校や家庭での様子や健康状態(顔色・声色・身体の変化など)などを確認します。 ・また、引き継いだ利用児の様子は当日の校舎職員に共有させていただきます。 <p>(来校時)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・来校時には、体調確認や外傷のチェックを行います。 ・利用児の体温を日案に記載し、確認できるようにしています。 ・来校時及び活動中は利用児の顔色や表情、様子の変化に気を配るようにしています。 ・来校時には声掛けをし、聞き取りにて当日の体調(メンタル、コンディション)を確認します。 ・来校時には、衛生面や衣服(汚れの有無、昨日と服が一緒ではないか)について、確認します。 ・利用児の体調や様子で気になることがあれば、保護者へお伝えします。 ・活動中は利用児がけがをすることがないよう、職員による見守りを行います。
(b)健康の増進	健康な生活のリズムを身に付け、楽しんで食事ができるよう支援する。また、病気の予防や安全への配慮を行う。	<p>(直接的な支援)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体調が悪いときには自ら職員等へ伝えられるように指導・支援します。 <p>(運動面)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用児の運動不足対策、ストレス発散のため、晴天時は屋外(公園等)へ行き、身体を動かすことができるよう支援します。 ・雨天が続く場合には室内でも身体を動かすことができるよう、支援しています。(散歩、ストレッチ、サーキットレーニングなど) ・運動が苦手な利用児にも明るく楽しく声掛けをし、参加しやすくなるように配慮しています。 <p>(食育面)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安全で衛生的、加えて選ぶ楽しみのあるおやつを提供しています。 ・肥満傾向にある利用児に対して保護者と相談の上おやつ管理を行います。

支援級

		<ul style="list-style-type: none"> ・食事の際は、「よく噛む」や「いい姿勢」で【楽しく食べる】よう声掛けをしています。 ・「みんなで食事をする楽しさ」を学べる時間(感じてもらえる機会)を設けています。 ・学校休業日には身近な内容から食育を行っています。 ・クッキング(調理体験)を取り入れ、作る・食べる楽しさを体験してもらう機会を設けています。 ・食の楽しみを知り、食べられるものの幅を広げていけるよう支援しています。 ・栄養バランスを考えた食事の選択(お弁当選び)ができるよう支援しています。 ・クッキング(調理体験)やテイクアウトの注文による昼食を提供し、様々な食べ物を知る、見る、食べる機会を設けることができるよう支援しています。
<p>(c)リハビリテーションの実施</p>	<p>日常生活や社会生活が営めるよう、それぞれの子どもに適した身体的、精神的、社会的訓練を行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・来校時や、車の出発・到着時にはあいさつができるよう促します。 ・校舎のルールを決め、来校したら先ず宿題を終わらせるなど、すべきことから終わらせる習慣がつくよう支援しています。 ・日々の宿題が習慣化するよう支援しています。 ・宿題時に分からないことや困ったことがあるときには自分から職員に気持ちを伝えられるように支援しています。 ・衣服に合わせた畳み方ができるよう支援しています。 ・通学に苦手感がある利用児には、気持ちに寄り添って支援しています。 ・不安を抱えている利用児へは声掛けやフォローを行います。 ・はさみなどの道具の使い方のポイントを伝え必要な支援をして動作獲得を促しています。 ・はさみの使い方やボタンの止め外し等の訓練を行います。 ・遊びや活動に身体使いや手先使いなど訓練的な要素を取り入れて支援しています。 ・利用児に適した製作や難易度を提供し、楽しく手先の巧緻性が向上するよう支援しています。 ・SST(買い物体験を通じて挨拶やお金の出し方等の練習)を取り入れています。 ・個に応じた訓練(色付きの細かいリング等を色別に分ける、ボール掴み等)を行います。 ・病院受診の結果やリハビリ内容を保護者と情報共有し、校舎でも可能な範囲で訓練を行います。
<p>(d) 基本的な生活スキルの獲得</p>	<p>身の回りを清潔にし、食事、衣類の着脱、排泄など生活に必要な基本的技能を獲得できるよう支援する。</p>	<p>(衣服・身だしなみ)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「身だしなみ」の概念を持つことができるような掲示や声掛けを行っています。 ・衣服の裾入れ動作が獲得できるように支援しています。 ・気温に合わせた上着の着脱ができるよう声掛けをしています。 ・夏休み、プールの着替えを利用して更衣動作評価をしています。未獲得の部分に対しては支援しています。 ・姿見(全身が映る鏡)を設置し、自らの身だしなみを整えられるよう支援しています。 ・着替えた服をたたみ、かばんやかごへ入れることができるよう支援しています。 ・衣服が汚れたり汗をかいたりした場合に着替えができるよう声掛けをしています。 <p>(食事)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食事の際にはマナーや口周りの汚れに意識が向くよう支援しています。 ・食具を用いて食事を行うよう指導しています。 ・おやつや食事の際には真っ直ぐ座るように声を掛けをしています。

支援級

		<ul style="list-style-type: none"> ・おやつや食事の後には自分で使った机を台拭きで拭くように声掛けを行っています。 (整理整頓) ・靴やランドセルなどは自ら所定の場所に置けるように支援しています。 ・靴箱には名前を提示し、置く場所を視覚化しています。 ・持ち物の管理や整理整頓が習慣化できるよう声掛けをしています。 (排泄) ・排泄後には消臭スプレーを使うように声掛けを行っています。 ・排泄後にはハンドソープをつけて、丁寧に手を洗うように見守っています。 ・女子利用児であれば、月経に関すること(ナプキンの付け方やなぜ生理がくるか等)を必要に応じて支援しています。 (その他) ・衛生面について、手が汚れたら洗う、床に食べ物などを落としたら拭くなど清潔を保つ習慣が身につくよう支援しています。 ・来校後の支度が習慣化できるよう支援しています。
<p>(e) 構造化など生活環境を整える</p>	<p>生活の中で、さまざまな遊びを通して学習できるよう環境を整える。また、障害特性に配慮し、時間や空間を本人に分かりやすく構造化する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> (予定) ・校舎全体の当日のスケジュールをホワイトボードに提示し、視覚化するようにしています。 ・個別に当日のスケジュールの声掛けをするようにしています。 ・送りの利用児については帰りの配車を聞いて覚えられるように繰り返し行っています。 ・わからないことは自分から聞くよう促しています。 (空間) ・目的ごと使用する部屋(学習室、活動室など)を分けています。 ・学習室の一方向にし、集中して取り組めるような環境を整えています。 ・気が散りやすい子にはパーテーションを用いて集中できるように環境を整えています。 ・クールダウンの部屋を設け、利用児の気持ちが落ち着くまでは、その部屋で過ごすことができるようにしています。 ・製作活動での製作物を視覚化し、見通しを持って参加できるようにしています。 (その他) ・個人で使用するものがわかるように、名前(ふりがな)を記載するようにしています。 ・色や形、数を取り入れた遊びを行っています。
<p>領域</p>	<p>(イ) 運動・感覚</p>	
<p>ねらい</p>	<p>(a) 姿勢と運動・動作の向上 (b) 姿勢と運動・動作の補助的手段の活用 (c) 保有する感覚の総合的な活用</p>	

支援級

<p>(a) 姿勢と運動・動作の基本的技能の向上</p>	<p>日常生活に必要な動作の基本となる姿勢保持や上肢・下肢の運動・動作の改善及び習得、関節の拘縮や変形の予防、筋力の維持・強化を図る。</p>	<p>(運動・体幹強化)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外遊び(鬼ごっこ・縄跳び・缶ぽっくり・穴掘り)、バランスボールなどで身体や関節を動かすことで、身体機能の維持・向上を図っています。 ・公園で身体を動かすようにしています。 ・筋力維持、強化のため、アスレチック、バランス遊びなどの活動を取り入れています。 ・宿題や食事など、姿勢を意識できるような声掛けを行っています。 ・雨天時など屋外での活動が制限される場合には、動画を見ながらダンスや体操など全身運動を取り入れています。 ・活発な動きを求める児童はよりハードな運動・筋トレなど周りに危険のない場所で行っています。 ・体幹強化と身体のバランス性を養うため、片足立ちでのバランスゲームを取り入れています。 ・雨の日でも運動ができるよう、サーキットトレーニングや室内でできる運動を取り入れ、体力向上を図っています。 ・筋力維持や強化の為、遊具等を用いて身体を動かす活動を取り入れています。 <p>(姿勢)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習時や食事、車内では、正しい姿勢を意識し、保持できるよう促しています。 ・定期的に SST にて立位、座位の姿勢に関する声掛けを行っています。 ・体力や特性に合わせた姿勢保持ができるように支援しています。 <p>(その他)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お箸の持ち方トレーニングのため、大豆つかみゲームを取り入れています。 ・掴む動作、拾う動作の練習を取り入れています。
<p>(b) 姿勢保持と運動・動作の補助的手段の活用</p>	<p>姿勢の保持や各種の運動・動作が困難な場合、姿勢保持装置など様々な補助用具等の補助的手段を活用してこれらができるよう支援する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学習や食事の時など机といすの高さが合わない利用児に対し、高さ調節のための足台を活用し、正しい姿勢を保持できるようにしています。 ・歩行が不安定な利用児には階段を上る際に手すりを使用するよう促しています。 ・乗車時や室内でボルダリングを登る際には、後ろや下から身体を支えるなどの手助けをし、少しずつ自力でできるように支援しています。
<p>(c) 身体の移動能力の向上</p>	<p>自力での身体移動や歩行、歩行器や車いすによる移動など、日常生活に必要な移動能力の向上のための支援をする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・歩行が不安定な利用児へは、段差や階段がある時には事前に声掛けをして注意を促しています。
<p>(d) 保有する感覚の活用</p>	<p>保有する視覚、聴覚、触覚などの感覚を十分に活用できるよう、遊びなどを通して支援する。</p>	<p>(五感)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・かくれんぼで聴覚、紙粘土工作で触覚、木工工作で嗅覚などの感覚を養うことができるよう、活動に取り入れています。 ・活動にビジョントレーニングとして「伝われ！テレパシー」、聴覚、集中力トレーニングとして「よく聞いて考えよう」「伝言ゲーム」、微細運動トレーニングとして「ちぎり絵」などを取り入れています。 ・五感を養うため、活動に手遊び歌を取り入れています。 ・感覚統合遊びを日々の活動、レクリエーションに取り入れています。

支援級

		<ul style="list-style-type: none"> ・五感を養うための遊び(動物の鳴き声クイズ、だるまさんが転んだ、ちぎり絵、新聞じゃんけん、物当てゲーム(聴覚含)、模写、けん玉、真似っこあそびなど)を活動に取り入れています。 (触覚) ・風船遊び、新聞遊びなどビジョントレーニングや、手先を使う活動を多く取り入れています。 ・畑での土いじり、水遊びなど自然と触れ合う活動を取り入れています。 ・触覚の感覚を養うため、箱の中身を当てる「これなんだ？」ゲームを取り入れています。 ・様々な刺激が得られるようなおもちゃや素材(折り紙やボールなど)を遊びに取り入れています。 ・バスボムづくりを取り入れています。 (視覚、聴覚) ・視覚だけで判断する「ジェスチャーゲーム」、聴覚だけで判断する「よーく聞いて考えよう」などの活動を取り入れています。 ・楽器や歌を歌う活動を取り入れています。 ・音を楽しんでもらえるよう、鈴を入れた手作りのおもちゃを遊びに取り入れています。 ・音楽を聴きながらダンスや体操をしています。
<p>(e) 感覚の補助及び代 行手段の活用</p>	<p>保有する感覚器官を用いて状況を把握しやすくするよう眼鏡や補聴器など各種の補助機器を活用できるような支援する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・メガネ、補聴器など、保護者の協力のもと、必要に応じて活用しています。 ・必要に応じて、鉛筆補助具、ざらざら下敷きなど学習補助用具を活用しています。 ・補助機器を活用する場合には、使用頻度や使用方法を保護者に確認します。 ・イヤーマフを活用している利用児が、必要に応じて外すことができる環境づくりをしています。 ・普段眼鏡や補聴器を使用している利用児が、着用していなかった場合には声掛けにて支援します。 ・眼鏡や補聴器を使う子どもに合わせた支援を行います。(表示の字を大きくする、正面から声を掛けるなど)
<p>(f) 感覚過敏への対応</p>	<p>感覚や認知の特性を踏まえ、自分に入ってくる情報を適切に処理できるよう支援し、特に感覚の過敏さや認知の偏りなどの個々の特性に配慮する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> (触覚) ・楽しく触覚過敏を軽減する活動(ハンドスタンプなど)を取り入れています。 (視覚) ・パーテーションを用意し、必要に応じて活用しています。 ・校舎内の表示を分かりやすくしています。 ・学習の際には個別で集中して取り組めるように、机同士の仕切りを用いています。 (聴覚) ・聴覚過敏な利用児には、必要に応じて、イヤーマフの利用を保護者へ相談します。 ・活動中や支援時の音量については、個に応じて調節をして支援します。 ・音に敏感な利用児がいる場合は、環境に配慮して静かな空間を設けるようにしています。 (その他) ・職員が、本人の苦手な感覚を用いて先に様子を見せ、不安を取り除いたうえで安心できるよう支援しています。 ・利用児の様子に応じて、個室の活用や周りの利用児への配慮の呼びかけを行っています。
<p>領域</p>	<p>(ウ) 認知・行動</p>	

支援級

<p>ねらい</p>	<p>(a) 認知や行動の発達 (b) 空間・時間、数などの概念形成の習得 (c) 対象や外部環境の認知を適切な行動に改善</p>	
<p>(a) 感覚や認知の活用</p>	<p>視覚、聴覚、触覚などの感覚を十分活用して、必要な情報を収集して認知機能の発達を促す支援を行う。</p>	<p>(触覚) ・「箱の中身クイズ」を行い、触覚の発達を支援しています。</p> <p>(聴覚) ・活動に「動物の鳴き声クイズ」を取り入れています。 ・「おやつ」の言葉からおやつを食べるという事を認知してもらえるよう、支援しています。</p> <p>(視覚) ・個に応じた、絵カードや写真を活用して支援しています。 (例えば、帰りの会が始まる時間を伝えたい場合には「時計のイラスト」の絵を活用するなど) ・製作の際は、見本を置く、作り方、手順をわかりやすく黒板に記し、言葉で補いながら伝えています。 ・ボードにイラストを掲示したり、ジュエチャー等を交えたりし、分かりやすい説明をするよう心掛けています。 ・タイマーや表示を利用し、視覚や聴覚から行動に繋がるような支援をしています。</p> <p>(五感) ・制作や外遊び散歩を行い、見たり(電車・バス・花)、聞いたり(風の音・電車・バス・車)、触れたり(遊具・花・葉っぱ)することで感覚を覚えてもらえるよう支援しています。 ・自然に触れる機会を増やし、五感を刺激する自然体験を提供しています。(畑、川遊び、虫取り、お茶畑など) ・活動に「かくれんぼ」を取り入れています。 ・活動の中で遊びの要素を活用して支援しています。</p>
<p>(b) 知覚から行動への認知過程の発達</p>	<p>環境から情報を取得し、そこから必要なメッセージを選択し、行動につなげるという一連の認知過程の発達を支援する。</p>	<p>・新規の利用児などには入室後の流れを可視化したものを見せ、自身の動きが分かるようにしています。また、現利用児には声掛け等しながら行動に繋がっていくよう支援しています。</p> <p>・一連の行動を表示・説明をし、必要に応じた声掛け支援をしています。</p> <p>・ホワイトボードを活用しながら、当日の流れなどを確認しています。</p> <p>・見通しがもてる声掛けを行っています。</p> <p>・活動の切り替えの際など、時計を見るように声掛けを行っています。</p> <p>・各部屋に時計を設置し、時間を意識できるようにしています。</p> <p>・手を洗うなどの写真やイラストを用いて表示しています。</p> <p>・活動に「写真から自画像を描きだす」ことを取り入れています。</p>
<p>(c) 認知や行動の手掛かりとなる概念の形成</p>	<p>物の機能や属性、形、色、音が変化の様子、空間・時間等の概念の形成を図ることによって、それを認知や行動の手掛かりとして活用できるよう支援する。</p>	<p>・普段の生活の中で、天候を気にかけることができるよう、工夫しています。(晴れたら外遊び、雨だったら室内など)</p> <p>・帰りの会の前に読み聞かせを行うことで落ち着いて帰る準備ができるようにしています。</p> <p>・活動に「バスボムづくり」など理科の実験のような体験を取り入れています。</p> <p>・写真から静物画を作成する活動を取り入れています。</p> <p>・歌、ダンス、盆踊りなどの活動を取り入れています。</p>

支援級

		<ul style="list-style-type: none"> ・トランポリン、知育玩具、創作活動などを取り入れています。 ・遊びの中で工夫して取り入れています。(風船など→形が変わる、割れたら音が鳴る)
(d) 数などの習得	<p>数字・数詞対応課題、計数課題、数唱課題などの数概念の習得のための支援を行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・個別の学習支援(Educo)を行っています。 ・買い物体験をする前にお金の計算を練習しています。(商品を購入するためには何円と何円を合わせたら買えるのか) ・時計の読み方、お金の計算、九九の読み上げなど土曜営業日や長期休暇時に集中して支援に取り入れています。 ・学校の宿題の見守り支援を行っています。 ・利用児それぞれの特性に合わせた教材を提供して取り組んでいます。 ・遊びの中で数を数える場面を多く取り入れています。(鬼ごっこのカウントを逆唱する、駄菓子屋さんごっこ、ナンバータッチゲームなど) ・校舎内での生活の中で、日付を確認したり、活動や車の順序付けをしたりするなど、意識的に取り入れています。
(e) 行動障害への対応	<p>感覚や認知の偏り、コミュニケーションの困難性から生ずる行動障害の予防、及び適切行動への対応の支援を行う。</p>	<p>(全体支援)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事前にスケジュールの確認をし、見通しをもち安心して行動できるように支援しています。 ・具体的な声かけ・端的な指示を心掛けています。 ・利用児にとって分かりやすい言葉を用いて、その都度簡潔に伝えています。 ・絵カード、ジェスチャーを取り入れて支援しています。 <p>(個別支援)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの特性によって予測できることは事前に対応を確認するようにしています。また気持ちがコントロールできるよう、深呼吸を促したり、気持ちを代弁したりするなどの支援を行っています。 ・他害行為については毅然とした態度で対応しています。また、別室で気持ちの安定を図り、利用児の思いの共有、原因について考え、それに合ったアプローチを行い、支援します。 ・何事にも事前に声掛けをして支援しています。利用児の意思をできる限り尊重しながら、問題行動が減るよう支援しています。 ・腕の長さなど体の部分を使い、分かりやすく相手との距離感を体感させています。 ・暴力が出やすい利用児に対し、暴力が出てから叱るのではなく極力、未然に防ぐことができるよう、注意して見守っています。 ・不適切な行動が過ぎる場合には、安全を確保した上で、計画的静観を行うなど、個に応じた支援を行います。 ・問題が生じた際には、利用児に合わせた対応を行っています。 ・常に利用児の見守りをおこない、危険回避が出来るように支援しています。 ・マンツーマンでの対応をしています。他の利用児に危害を与えてしまう可能性がある場合には、距離を置くようにしています。

支援級

		<ul style="list-style-type: none"> ・刺激になる物や人(信頼関係がまだ築けていない人)の配置について、配慮しています。(環境の工夫) ・必要に応じて、部屋を移動したり、パーテーションを使用したりするなど、クールダウンできるように促しています。
<p>領域</p>	<p>(エ) 言語・コミュニケーション</p>	
<p>ねらい</p>	<p>(a) 言語の形成・活用及び受容・表出 (b) コミュニケーションの基礎的能力の向上 (c) コミュニケーション手段の選択と活用</p>	
<p>(a) 言語の形成と活用</p>	<p>具体的な事物や体験と言葉の意味を結びつけるなどにより、体系的な言語の習得、自発的な発声を促す支援を行う。</p>	<p>(声掛け)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自発的に会話ができるように職員が声を掛けして促しています。 ・散歩時等は職員が利用児に意識的に話しかけるようにしています。 ・声掛けや復唱をして、言語(発語)に繋がるように支援します。 ・利用児自身が困った場面で、自ら助けを求められるように促します。 ・自らあいさつすることができるよう、声掛けをして促しています。 ・場面に合った言葉をその都度知らせ、言葉カードなどを活用して視覚化しています。 ・活動のなかで、「いつ」「だれと」など5Wの質問を意識的に取り入れています。 ・体験、見聞きしたものを言葉として認識できるよう、職員から積極的に発声、声掛けを行い、児童の自発的な発声を促しています。 ・読書を通じて発語を促しています。 ・移動車内での利用児(職員)とのやりとりを通じて、言語習得を支援しています。 ・ゆっくりと丁寧に関わり、その日の出来事などを話すことで、言語習得を支援しています。 ・簡単な短い言葉で伝え、言語習得を支援しています。 <p>(場の提供)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の意見、発表の場を多く取り入れています。(感想を聞く、誕生日インタビューなど) ・校舎内で制作したものを発表する機会を設けています。 ・外出し、様々な体験ができる機会を取り入れています。 ・散歩など自然の中にあるものに対して説明する機会を設けています。 ・日々の活動、レクリエーションに多く取り入れて支援しています。 ・活動に「よく聞いて考えよう」ゲーム(3ヒントゲーム)を取り入れています。 ・帰りの会などにおいて、活動内容や今日の出来事、感想を発表する機会を設けています。 ・プリント学習を取り入れています。

支援級

<p>(b) 受容言語と表出言語の支援</p>	<p>話し言葉や各種の文字・記号等を用いて、相手の意図を理解したり、自分の考えを伝えたりするなど、言語を受容し表出する支援を行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の気持ちを相手に伝えられるように、職員が間に入り支援しています。 ・ふわふわ言葉、ちくちく言葉をみんなで一緒になって考え、発表する機会を設けています。 ・写真や絵カードなどを用いて活動内容等を提示し、利用児には○×カードで意思を表せるよう工夫しています。 ・利用児がその日あったことを思い出しながらメモを取り、保護者へ伝えられるよう支援しています。 ・当番や誕生日会などにおいて、インタビュー形式で質問をする機会を設けています。 ・言葉が聞き取りにくい利用児に対しては時間をかけて接するようにしています。 ・同じ職員が継続的に接することにより、発語が増えるよう支援しています。 ・個々に合わせた学習プリントを取り入れています。
<p>(c) 人と相互作用によるコミュニケーション能力の獲得</p>	<p>表情や身振りなどの非言語的コミュニケーション手段などを用いて意思の伝達ができるよう支援する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・相手と視線を合わせることで感情を伝えられるよう支援しています。 ・身振りや手話、マカトンサインなどを使い、コミュニケーションを図っています。 ・出来るだけ伝わりやすいようにより簡潔に簡単なジェスチャーを用いています。 ・学校で使っているジェスチャーをなるべく同じように使用しています。(共通サイン)←例:”貸して””やって”等のジェスチャー ・顔のパーツの組み合わせでどのような表情かを学ぶ機会を設けています。 ・成功体験を得られた時など嬉しい感情をその子どもに伝わりやすい方法に合わせてハイタッチしたり拍手したりすることで、共感できるようにしています。 ・ジェスチャーゲームを取り入れています。
<p>(d) 読み書き能力の獲得のための支援</p>	<p>聴覚に障害のある子どもや発達障害の子どもなどの障害特性に応じた読み書き能力の向上のための支援を行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・職員が文章を読み上げることで、正しい読み方、音を伝えています。 ・読みやすいよう、カラーペンなどを使い、目で追いやすように配慮しています。 ・利用児に合わせたプリント学習などの学習支援を繰り返し行っています。 ・マンツーマンで対応しています。 ・絵本の読み聞かせを活動に取り入れています。
<p>(e) コミュニケーション機器の活用</p>	<p>各種の文字・記号、絵カード、機器等のコミュニケーション手段を適切に選択、活用し、意思伝達が円滑にできるよう支援する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・絵カードや写真を使い、スケジュール(活動の流れ)を分かりやすく伝えています。 ・絵カードなどを壁面貼付し、活用しています。 ・学習室などに「勉強中」などの絵カードを提示しています。 ・ホワイトボードを活用し、乗車時に座る位置などを知らせています。 ・表情カード、ひらがなカードなど利用児それぞれに適したツールを用いています。 ・指示が通らないときには、個別で名前を呼んだり、肩を叩いたりするなど、こちらに注意が向くように配慮しています。
<p>(f) 文字言語、手話、動作によるサインの活用</p>	<p>手話を含む言語、文字の表示、点字、音声、触覚、平易な表現などによる多様なコミュニケーション手段を活用できるよう支援する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・簡単な手話を使い、コミュニケーションを図っています。 ・家庭、学校、ひまわりとで、共通の方法で支援できるよう努めています。
<p>領域</p>	<p>(オ) 人間関係・社会性</p>	

支援級

<p>ねらい</p>	<p>(a) 他者とのかかわり(人間関係)の形成 (b) 自己の理解と行動の調整 (c) 仲間づくりと集団への参加</p>	
<p>(a) アタッチメント(愛着行動)の形成</p>	<p>人との関係を意識し、身近な人と親密な関係を築き、その信頼関係を基盤として、周囲の人と安定した関係を形成するための支援を行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・個々ではなく、集団活動を意識づけした行動を心掛けられるよう支援します。(公園では友達と遊ぶ等) ・利用児に対し、常に傾聴する姿勢で気持ちを受け止め、我々は味方であることを伝え、信頼関係を築いています。 ・利用児の話を最後まで十分に聴き、利用児の気持ちを代弁し受容するよう努めています。 ・周囲の人(職員・児童)への伝え方を日々の活動のなかで支援します。 ・時には1対1の関わりを増やし信頼関係の形成を行っています。 ・良いことはたくさん褒め、良くないことはきちんと理由も付け加えて伝えています。 ・できたことを見逃さず、認めて評価することで信頼関係を築いています。 ・パニックになった時に受け止め、共感したうえで一緒に考えるようにしています。 ・利用児にとって好きな関わり方を見つけ、繰り返し関わりを持てるようにしています。 <p>(環境)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・落ち着くことのできる環境を提供しています。 ・信頼関係を築き、利用児にとって、安心できる環境づくりを行っています。
<p>(b) 模倣行動の支援</p>	<p>小さな動き、大きな動き、口の動きなどを模倣することにより、社会性や対人関係の芽生えを支援する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・職員が声の大きさを変えることで、どのくらいの声の大きさが適切かを示しています。 ・利用児の動作・行動を真似することで人への気づきを促しています。 ・休業日の公的施設訪問時など、職員の動きに習って行動するように支援しています。 ・社会的ルールなど、事前に説明した上で、実践の場で職員がお手本となるようにしています。 ・いつもと違うシチュエーションや環境になった際は、まずは職員が見本、声掛けをして定着させています。 ・ラジオ体操やダンス、草取りやゴミ拾いなどを通じて社会性を学ぶことができるよう支援しています。 ・英語やダンスの活動を取り入れています。 ・職員が模範となる動作や行動を示し、明るく笑顔を見せるようにしています。 ・見本を見て製作に取り組むことができるように支援しています。 ・人との距離感を学んでいけるよう、ひまわりでの活動のなかで支援しています。 ・利用児にお手伝いをお願いし、模倣をする機会を取り入れています。 ・活動に「真似っこゲーム」を取り入れています。 ・リトミックを取り入れています。
<p>(c) 一人遊びから共同遊びへの支援</p>	<p>周囲に子どもがいても無関心である一人遊びの状態から、役割分担を作ったり、ルールを持って遊んだり協働遊びを通して、社会性の発達を支援する。</p>	<p>(個→集団)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一人で遊んでいる利用児に職員と一緒に遊んでよいかを聞いたうえで、その後、集団遊びをしている利用児たちも一緒に遊ぶか促すなど共同遊びに繋がるよう支援しています。 ・利用児がやっている興味のある遊びを職員や他児と一緒に楽しみ、共同遊びに繋がるよう支援しています。

		<ul style="list-style-type: none"> ・一人遊びや対職員との遊びが多い利用児には十分その時間も取りつつ、周囲にいる利用児と楽しそうに遊んでいる様子を見てもらえるように声かけしたり、タイミングをみて仲間に入れるように支援たりしています。 ・まず人の少ない環境に慣れてもらい、次に少人数から少しずつ集団活動へと移行していけるよう促しています。 ・かくれんぼやだるまさんがころんだなど、嫌になったら抜けやすい1クールが短い遊びから誘い、共同遊びができるようにしています。 ・魅力的な集団遊びを提案し、職員が仲立ちをして一緒に遊ぶことから始め、段階を経てゆくゆくは利用児同士で遊べるよう支援しています。(ドッジボール、鬼ごっこ、しっぽとりなど) ・個々ではなく、集団活動を意識づけした行動を心掛けるよう支援しています。(公園では友達と遊ぶ等) ・利用児からの声掛けで仲間に加わり、一緒に活動することができるよう促しています。 <p>(役割・ルール)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活動前の片づけを最後までやってもらい、「できたら褒める」ことを繰り返し行っています。 ・活動でゲームを行った際、順番を待つことができるよう支援しています。 ・活動の際、グループ分けをし、リーダーを任せる機会を設けています。 ・外出時に、高学年と低学年のペアで歩くなど他児と行動する機会を設けています。 ・ゲーム、遊びの中での役割を利用児たちで決めることができるよう支援しています。(ごっこ遊び、鬼ごっこ) ・遊びのルールをみんなで考える場面を多く取り入れています。 ・同学年だけでなく、他学年との関わりを通して社会性を築くことができるよう支援しています。 ・物の貸し借りでルールを学ぶことができるよう支援しています。 ・おやつの際に「いただきます」を利用児に言ってもらうようにしています。 ・率先して役割を担ってくれる利用児には、任せることで、責任感を持ってもらうようにしています。 ・車での移動の際は、車内で利用児同士の交流を楽しめるようにしています。 ・活動時には司会をやってもらう機会を取り入れています。 ・イベントやレクリエーションの計画を立てる際には、職員が間に入り、利用児同士で役割を決めるようにしています。
<p>(d) 自己の理解とコントロールのための支援</p>	<p>自分のできること、できないことなど 自分の行動の特徴を理解し、自己肯定感を強める支援を行う。</p>	<p>(集団支援)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己選択、自己決定の場面をどの活動にも取り入れています。 ・できなかったことが活動や遊びを通してできるようになるよう支援しています。 ・帰りの会で子どもの良い行動を褒める発表を行います。 ・利用児の良い行動を他の利用児に伝える機会を設けるようにしています。 ・高学年が低学年のフォローや手伝い(プリントを見てあげる、一緒に遊んであげる)を率先して行ってくれるような環境づくりを意識しています。 ・やってみようとチャレンジする体験を支援の中に取り入れています。 ・当番活動などで「できる体験」を行うことができるよう、支援に取り入れています。 ・利用児それぞれの特性に合わせ、活動の中でできることを支援しています。

支援級

		<ul style="list-style-type: none"> ・個々に合わせた活動内容を提供しています。公園であれば、利用児に合わせた遊具や場所選びを行っています。 (個別支援) ・完璧ではなくてもできたことを褒めるような支援を行っています。 ・人と比べず、その子の変化(昨日の自分と比べる)を褒めるような支援を行っています。 ・できたことはたくさん褒め、できなかったことはアドバイスしながら励ますことで、「次は方法を変えてチャレンジしてみよう」などと利用児が前向きに捉えられるような支援を心がけています。また、できないことは手伝い、自己肯定感を高められるよう支援しています。 ・気持ちや希望の表出を促し、自分の言葉で表出できた時は褒め、認めてあげることで自己肯定感を高められるような支援を行っています。難しいことへは、挑戦する利用児のフォローや、できたことを褒めて、次につながるような支援を行っています。 ・時には職員が失敗した姿を見せ、結果でなく経過を認め、褒めていくことで安心感を持てるようにしています。 ・自ら進んで手伝いをしてくれたとき、周りを見て行動をしてくれた時などは感謝を伝えながら褒めることで、自己肯定感を高められるようにしています。
<p>(e) 集団への参加への支援</p>	<p>集団に参加するための手順やルールを理解したり、遊びや集団活動に参加できるよう支援したりする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> (集団支援) ・朝の会(始めの会)では当日のスケジュールや活動内容、手順などを提示(視覚化)し、見通しをもって活動ができるようにしています。 ・子どもたちへの指示は短くわかりやすい言葉かけを意識して支援しています。 ・製作活動などでは、完成形を先に見せることで利用児の興味を引き、見通しをもたせられるようにしています。 ・活動前にルールや約束ごとを視覚化させながら伝え、その都度確認しながら進めるようにしています。 ・ひまわりでのルールや来校後の手順を経て活動に入ることができる流れ(環境)を整えている。活動から離れてしまった利用児に声をかけ、活動に戻れるように支援しています。 ・子どもたちが参加しやすい集団活動を考えたり、子どもたちからの意見を取り入れたり、相談しながら、集団で遊べる機会を増やせるよう工夫しています。 ・職員などが楽しむ姿を見せ、子どもたちが好きなことを取り入れ集団活動に興味をもてるよう促しています。 ・利用児同士で会話をしながら集団活動に参加する時のルールを徐々に学んでいけるよう支援しています。 ・職員や利用児同士が誘い合って集団遊びに参加できるよう支援しています。 ・かくれんぼやだるまさんがころんだなど、嫌になったら抜けやすい1クールが短い遊びから誘い、集団遊びに入れるよう支援しています。 ・集団活動に参加できるよう、まずは職員と一緒に集団に入って遊び、他児らと関わられるよう職員が仲立ちをしながら徐々に自信がつくところを目指して支援しています。 ・朝の会や帰りの会など、みんなの前で発表する機会を設けています。 ・集団活動のなかで、順番を守れるよう支援しています。 (個別支援) ・ゲームルールが理解しにくい利用児には少人数でゆったり職員と練習したりする機会を設けています。

支援級